

＜2月10日設立総会・記念集会在開かれる＞

明るく楽しい自由なネットに

インターネットを活用した労働者の情報ネットワーク「レイバーネット日本」が発足した。労働運動の情報を発信するウェブ・サイト「レイバー（労働）ネット」は1991年、アメリカで誕生。イギリス・リバプール港湾労働者の500名解雇争議（95～98年）や韓国・民主労総のゼネスト（96～97年）など、グローバル化に対抗する闘いを海外に伝える上で大きな役割を果たしてきた。

日本でも、ホームページを持つ労働組合や電子メールによる労働相談が増えているが、レイバーネットは、労働運動の本格的な情報ネットワークの確立が強く待ち望まれていた。

労働者・市民をつなぐ

2月10日、都内で開かれた設立総会には約70人が参加。会則や事業計画などを決め、伊藤彰信代表（全港湾書記長）ら役員を選出してレイバーネット日本の正式スタートを確認した。

設立趣意書は「コンピュータを先進国の優越的な道具としてではなく、所有できない人々の側に立ちながら労働者・市民が広く連帯を築く道具として活用することが求められる。レイバーネット日本は労働運動の発展を願うすべての人に開かれ、個人の自律性・自主性によって運営される参加型の組織」とうたっている。

総会の討論でも、「一方通行の宣伝ではなく双方向の情報交換を」「これまでの労働運動のイメージは『暗い・ダサイ・かたい』。これを『明るい・楽しい・やわらかい』に変えよう」「国際連帯、とくにアジアとの連帯の武器に」といった声が続いた。

国際連帯に活用を

総会後の記念集会上では、韓国ノドン（労働）ネットワーク協議会（98年11月結成）のイ・ヨンゴン事務局長が講演。韓国では、オンライン上での「ゼネスト支持」のヘッダー掲載運動や、浦項製鉄に対する解雇争議で会社ホームページをパロディ化し国際的支援を広げた取り組み、通信秩序確立法の制定に反対するサイバー・デモ（政府のホームページに一斉アクセスしダウンさせる）、インターネット・ストライキ（掲示板に組合員の要求を集中的に書き込む）など、インターネットを駆使した多彩な運動が繰り返されている。

イさんは「多国籍資本の支配が強まり、新自由主義の波が普遍化する中で、労働者の運動も地球的次元で経験を共有する必要がある」と述べ、国際的な労働ネットワークの建設に向けた連帯の強化を呼びかけた。（浅井健治）

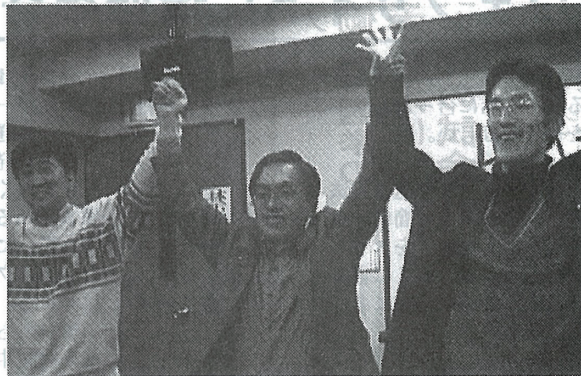
★海外から11のメッセージ

海外からは祝福のメッセージが以下の11団体・個人から寄せられた。

レイバーネット米国・レイバーネットUK・レイバーネットドイツ・レイバーネットオーストラリア・マレーシア運輸労組・韓国APWSL・APC（進歩的通信協会）・レイバースタート・ニュージーランド郵便労働者・クリスベリー

★日本での様々な取り組み

また、記念集会上ではパネルディスカッションもあり、鈴木玲（法大原社研）・安田幸弘（JCA-NET）・河添誠（白木屋・魚民で飲まない会）・石川源嗣（ジャパンユニオン）の各パ



ネラーから、日本での取り組みの実践例が出され、会場発言を含め活発な意見交換が行われた。設立総会で確認された役員は次のとおり。なお、仕事にあわせてプロジェクトチームを作っていくので、会員の皆さんの積極的参加をお願いしたい。技術部（安田）・国際部（高幣）などがすでに動き始めた。

＜2001年度役員＞

- 代表 伊藤 彰信（全港湾）
- 副代表 安田 幸弘（市民電子情報網）
- 事務局長 松原 一明（ビデオプレス）
- 事務局長次長 河添 誠（白木屋・魚民で飲まない会）
- 同 染森 信也（アズスト 根絶ネットワーク）
- 運営委員* 高幣 真公（APWSL 日本委員会）
- 同* 印鐘 智哉（JCA-NET）

- 同* 佐々木有美（ビデオプレス）
 - 同* 岩川 保久（民衆のびり連絡会）
 - 同 山田 隆（白木屋・魚民で飲まない会）
 - 同 江藤 正修（協同センター労働情報）
 - 同 新田 進（小川町シネクラブ）
 - 同 武田 和治（ジャパンユニオン）
 - 同 安田 浩一（ジャーナリスト）
 - 同 長岡 義幸（出版ネット組員）
 - 同 田島 省三（国労闘争団）
 - 同 吉原 英文（エレクトエウ）
 - 同 安斎 徹雄（出版ネット組員）
 - 同 額賀 正彦（全国一般南部）
 - 同 中野 聡（山谷労働者福祉会館）
 - 同 石川 正志（闘う闘争団に連帯する首都圏の会）
 - 会計監査 下見 徳章（伝送便・編集委員）
- *は事務局メンバーも兼ねる

早くもアクセス急増中・輪を拡げよう

レイバーネット日本が発足してまだ2ヶ月弱だが、ウェブサイトにはアクセスが急増しており、3万に達した。会員も70名を越えた。また、内容面でも韓国の大宇自動車労組の大量リストラとの闘いをはじめ、フィリピンの横浜ゴム子会社、トヨタ自動車子会社の組合つぶしとの闘いなどをレポートすることができた。日本でも「首切り自由」を許さない運動が本格的に始まろうとしているが、レイバーネット日本は、情報ネットワークとして、労働運動の再生に寄与していきたい。

情報提供のお願い

情報発信源はあなたです。とくに集中してほしいのがイベント情報。集会・デモ・行動計画・報告などをサイトに寄せてください。ウェブサイトからメールでまたはFAXでも結構です。

相互リンクのお願い

自分のウェブサイトが有る方はぜひレイバーネット日本にリンクを貼って下さい。ロゴ使用は自由です。なお、会員の方はトップページにバナーを貼れますので、左右150ピクセルの画像をyukihiro@jca.apc.orgまで送って下さい。

国際部へ参加しませんか

レイバーネット日本の重要な役割を担う国際部。さっそく3月12日に会議を開いて、海外ニュースの翻訳・日本からの発信等を相談した。次回は4月16日19時～お茶の水ホール。

技術部で初心者講習会

3月9日に争議中の全統一レイキ分会会議室を借りて、講習会を開催した。今後、初心者・上級者に分けて適宜開催していきたい。50代の労働者が使えるサイトが目標である。

会員には特典がいっぱい

- 会費は年会費3千円の個人会員制で運営されるが、会員には以下の特典があります。
- ・メンバーリストに加入……電子メールを使った全国規模の情報交換&交流。
- ・ニュースレターの送付……年4回活字のニュースレターを送付。
- ・メール通信員になれる……IDパスワードを使って直接ウェブサイトへ書き込み可能。
- ・ホームページの開設……ウェブ上に個人のホームページを開設できる。
- ・技術サポートと例会参加……技術講習会や例会&研究会に優先参加。
- ・プロジェクトチームに参加……国際部、技術部など専門チームに参加できる。
- ・ウェブ物販コーナーに出店……近々開店予定の物販コーナーに出店出来る。

4月例会のお知らせ

スティーブ・ゼルトツアー氏を囲んで

- 第1回例会は、来日中の米国レイバーネット代表スティーブ・ゼルトツアー氏を囲んで行う。米国労働運動とネットの取り組みなどを話してもらう。また運営委員会を兼ねた二部ではサイトへの意見・国内の情報交換を行いたい。
- ・とき 4月15日（日）午後2時～5時
- ・ところ 全統一レイキ分会会議室（東京・三河島駅 5分 改札口出て左へ。尾竹橋通り沿い。TEL 03-3805-6500）
- ・一部 スティーブ・ゼルトツアー氏を囲んで
- ・二部 拡大運営委員会（情報交換&交流）
- ・参加費 一般 500円（会員 300円）

ウェブサイトへ情報を寄せて下さい

ウェブサイトへ情報を送る方法はいくつかある。あなたに合った方法で、ジャンジャン情報を寄せてほしい。

●電子メールで送る方法

これがもっとも簡単。ウェブサイトの左側にある「情報提供」をクリックすると、送信ページが開くので、そこに書き込んで送信するだけ。あとは編集部が内容にあったページに振り分けて掲載する。

●談話室への書き込み

談話室のページで、「自由掲示板」をクリックする。一番下のほうに、「投稿欄」があるので、名前（匿名も可）と内容を書けば、即掲載される。メールアドレスは書かなくてもOK。

●メール通信員制度を使って

レイバーネット日本の特徴のひとつがこの「メール通信員制度」。会員の方にはIDとパスワードを発行するので、それを使えばイベントだけでなく、最新ニュースなどを直接ウェブに書き込める。左下の「ログイン」をクリックして、指示に従って書き込んでいけばOK。ただし、デスクのチェックを経るので、若干の時間はかかる。なお、なるべく多くの人にこの方式に慣れてもらうため、表記を含めより簡便な方法を検討中。

一番簡単な方法はFAX

チラシ・ニュースなど送って下さい。
FAX 03-3530-8578

メーリングリストを活用しよう we are labor-members

レイバーネット日本の会員になると、メールアドレスのある人は自動的に「メーリングリスト」に登録される。これは、それぞれがlabor-members@labornet.jp宛にメールを出せば、登録者全員に瞬時に配信することができるシステムである。集会の告知を始め、さまざまな情報交換・意見交換に大変便利だ。しかし、パソコン特有のトラブルも起きやすい。以下の点を注意しながら、どんどん投稿をしよう。

●宛先・内容の確認を忘れずに!

もっとも多いのは、個人宛のメールを間違えてメーリングリスト全員に流してしまうこと。メーリングリストから来たメールの頭は必ず、【labor-members XXX】となっている。そのメールに単純に「返信」ボタンを押して出すとメーリングリスト全員に送られることになる。特定の個人に返信のメールを出したい時には、返信ボタンを使わず、改めて新規メールにすること。メールを出すときは、宛先・内容を何度もチェックするクセをつけたい。

●「アウトロック」の設定にご注意

パソコンに「アウトロック」という通信ソフトが付いていることが多いが、その「初期設定」に問題がある。送信形式がHTML形式となっているので相手の機械によって文字バケが起きる。必ずテキスト形式に直しておきたい。

直し方はウィンドウの場合、「ツール」の中の「オプション」を選んでウィンドウを開く。「送信」のところを選んでパネルを前面に出す。「メール送信形式」の中でHTML形式のチェックを外して、テキスト形式にチェックを入れなおす。これでOKだ。

●見えない相手一言葉遣いに注意を

電話などの音声にはアクセント、間合いがあり「言葉の背後にあるもの」が比較的容易に伝わる。しかし、文字だとそうはいかない。その結果、本人が思う意図以上に極端化され、あるいはねじ曲って相手に伝わる傾向がある。たとえば、助言は命令に、疑問は否定や皮肉に、解釈されることもある。丁寧に配慮を込めた言葉遣いに徹することがメーリングリスト投稿のポイントである。

★レイバーネット日本設立趣意書

世の中では「IT革命」といわれるように、コンピュータを使った情報伝達、インターネットが飛躍的に発展しています。労働運動の分野でも、インターネットの活用はすすんでいます。ホームページをつくる労働組合は増えています。労働統計資料、労働組合の組織や方針、闘争や活動の情報がインターネットで入手できるようになりました。労働相談も電子メールでおこなわれるようになりました。海外では労働運動の情報ネットワークのウェブ・サイトである「レイバーネット」があります。イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア、インド（英語）、韓国（朝鮮語）、ドイツ、オーストリア（ドイツ語）、ラテンアメリカ諸国（スペイン語）の「レイバーネット」です。そして、相互に連携をとって活動しています。これらの「レイバーネット」は、イギリスのリバプール港湾労働者のたたかい、韓国民主労総のゼネストを海外に伝えることからつくられたように、「グローバル化」とのたたかいの中から生まれたものです。

コンピュータを所有できる人々のいわば先

進国の優越的な道具として使用するのではなく、所有できない人々の側に立ちながら、労働者・市民が広く連帯を築く道具として活用することが求められています。

このほど日本においても労働運動活動家、市民メディア関係者、労働運動研究者が集まり、海外の「レイバーネット」にも促され、ウェブ・サイトをはじめとする労働運動の情報ネットワークである「レイバーネット日本」を設立することにしました。

「レイバーネット日本」は、日本において労働者のたたかいを重視しながら、労働運動にかかわる情報ネットワークをつくります。海外にも日本の労働運動を紹介するとともに、海外の労働者のたたかいを日本に紹介します。インターネットを活用した労働運動の前進に貢献します。「レイバーネット日本」は、労働運動の発展を願うすべての人に開かれたネットワークであり、個人の自律性・自主性によって運営される参加型の組織です。

「レイバーネット日本」は、グローバル時代において、労働者の権利を確立し、連帯を強化することに役立ちたいと願うものです。

(2001年 2月10日設立総会で採択)

《ひとこと》

■「参加型」をめざして——安田幸弘

技術担当の安田幸弘です。「参加型の労働者のネットワーク」というレイバーネット日本の理念を、どうすれば実際のシステムとして実現できるのかと、日夜奮闘しています。ご協力をお願いします。(JCA-NET)

■外圧に身をさらす——高幣真公

日本は外圧に弱いことは明治維新以来有名です。しかし、工業化・近代化など外圧を有利に展開する方でも日本人は才能があったようです。今回のレイバーネット日本の設立もその例に連なるかもしれません。僕は国際部担当を引き受け、その外圧に身をさらす不安を「前向きに」受けとめたい。日本の労働運動が国際的なレベルに達するためのメディア=媒体として、レイバーネット日本を皆さんと一緒に前進させていきたいと思ひます。(APWSL日本委員会)

■水平的・横断的結合を——安齋徹雄

韓国での労働メディア国際会議に松原さんと参加したのは97年のときだった。その時、労働組合がインターネットを活用しているのを見た。そして、このような会議を日本でも開催できたら、と話しあったのを憶えている。それからインターネットはものすごいスピードで浸透し、日本でもようやくレイバーネットができた。労働者の情報発信はこれからだ。水平的・横断的な結合ができる場をめざしていきたい。(出版ネット組員)

■新しい運動と出会う場——河添 誠

この日本でも多くの労働運動活動家が地道に運動を進めている。新しい課題に取り組む労働運動も全国に多数生まれている。世界に目を向けてみると、いかに世界の労働者が多様で独創的な運動を展開しているかがよくわかる。しかし残念なことに多くの人がそうした運動を知る機会を持つことは困難だった。「レイバーネット日本」で日本と世界中の運動の情報が開かれたかたちでつながって、情報だけでなく新しく運動と出会う、そんな「レイバーネット日本」をつくっていきたい。(首都圏青年ユニオン組員)

■コミュニケーションづくり——松原 明

ワープロまでが精一杯、パソコンの無愛想には辟易としているが「運動の基本であるコミュニケーションづくりに役立つ」という一点で、のめり込んでしまった。日本でもやっと労働運動に変化の兆し・新しい動きが出てきたが、レイバーネット日本がその中でいい役割を果たせば、と思う。(ビデオプレス)

■人と運動を結ぶ場に——佐々木有美

国鉄闘争は14年以上続いてきたが、いま当事者の闘争団が国労本部から切り捨てられようとしている。日本でも、世界でも正しいことを貫いている人々の主張が通る世の中にしなければいけない。そのための情報発信・情報交換に大きな役割を果たしていくのがレイバーネット日本だ。様々な運動と人々がむすびあえる場にしたい。(ビデオプレス)